

医療機関の敷地内禁煙と禁煙支援 —禁煙支援に関するアンケートから—



第13回全国禁煙推進研究会キャラクター
「すわんけん」

共同調査 熊本県医師会
熊本県歯科医師会
熊本県薬剤師会
熊本県看護協会
くまもと禁煙推進フォーラム

日本禁煙学会雑誌 第8巻第5号
2013年（平成25年）12月24日

http://www.nosmoke55.jp/gakkaisi/201312/gakkaisi_131224_110.pdf

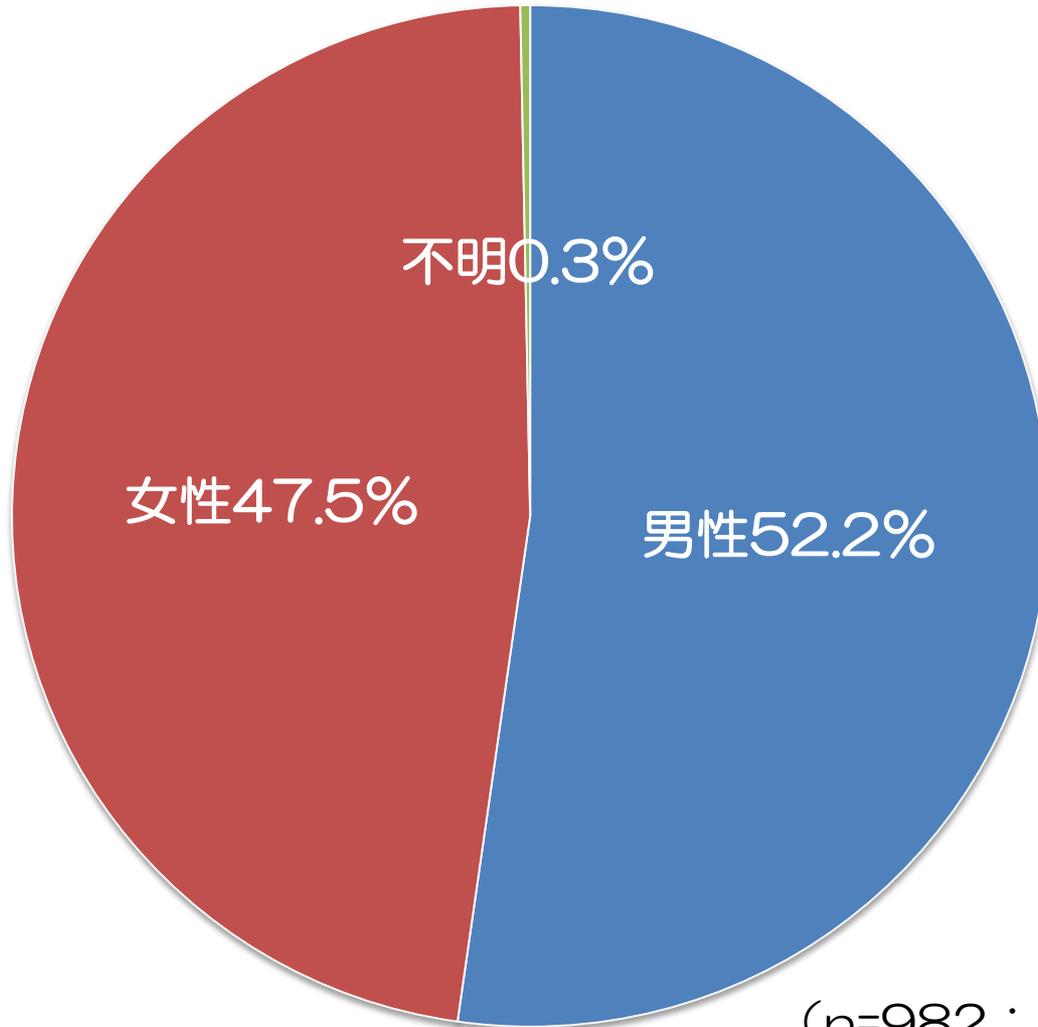
目 的

- 喫煙対策は日本の公衆衛生上の重要な課題である。
- 社会における禁煙の推進役となり、禁煙をサポートできる立場である。
- 簡単であっても医療者による禁煙支援により患者の喫煙行動が変化することが知られている。
- 医療団体は禁煙の取り組みを推進しているが十分な進捗が得られている状態ではない。
- 第13回全国禁煙推進研究会を開催した熊本県医師会、熊本県歯科医師会、熊本県薬剤師会、熊本県看護協会、くまもと禁煙推進フォーラムは、県内医療者に対して禁煙支援の取り組みに関するアンケート調査を実施した。

方 法

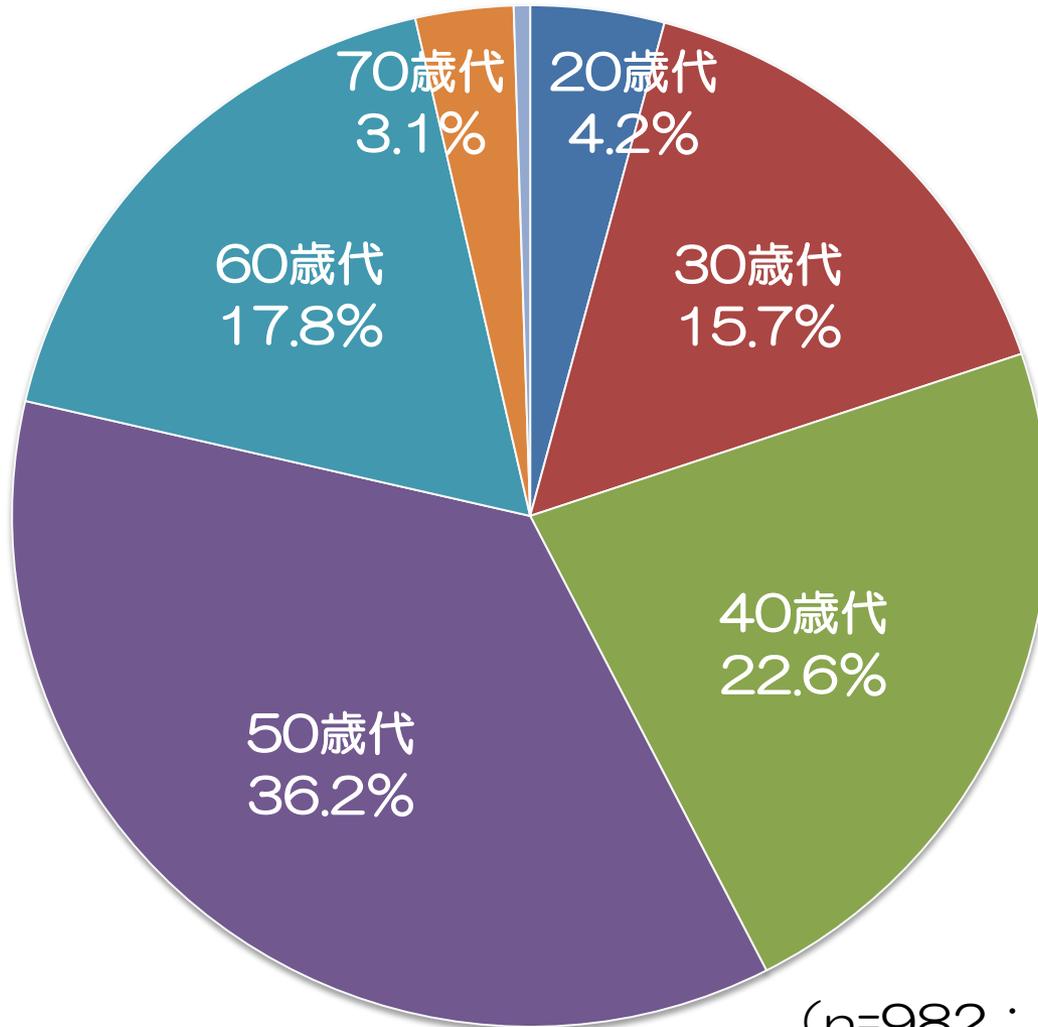
- 期間：2013年1月から2013年3月にかけて実施。
- 対象：熊本県医師会、熊本県歯科医師会、熊本県薬剤師会、熊本県看護協会の各団体が任意に会員へ回答を依頼し、調査への同意が得られた者から回答を得た。
- 対象者：982名
- 自己記入式質問紙調査。
- 質問内容：性別、年代、職種、勤務形態、喫煙歴、過去禁煙者には禁煙の理由、学習の機会の有無、啓発活動への取り組み、医療機関における禁煙支援、医療機関におけるタバコの販売、医療機関における喫煙対策、所属団体の禁煙宣言への知識、自身の禁煙支援、禁煙支援への自信、喫煙についての考え。

回答者の性別



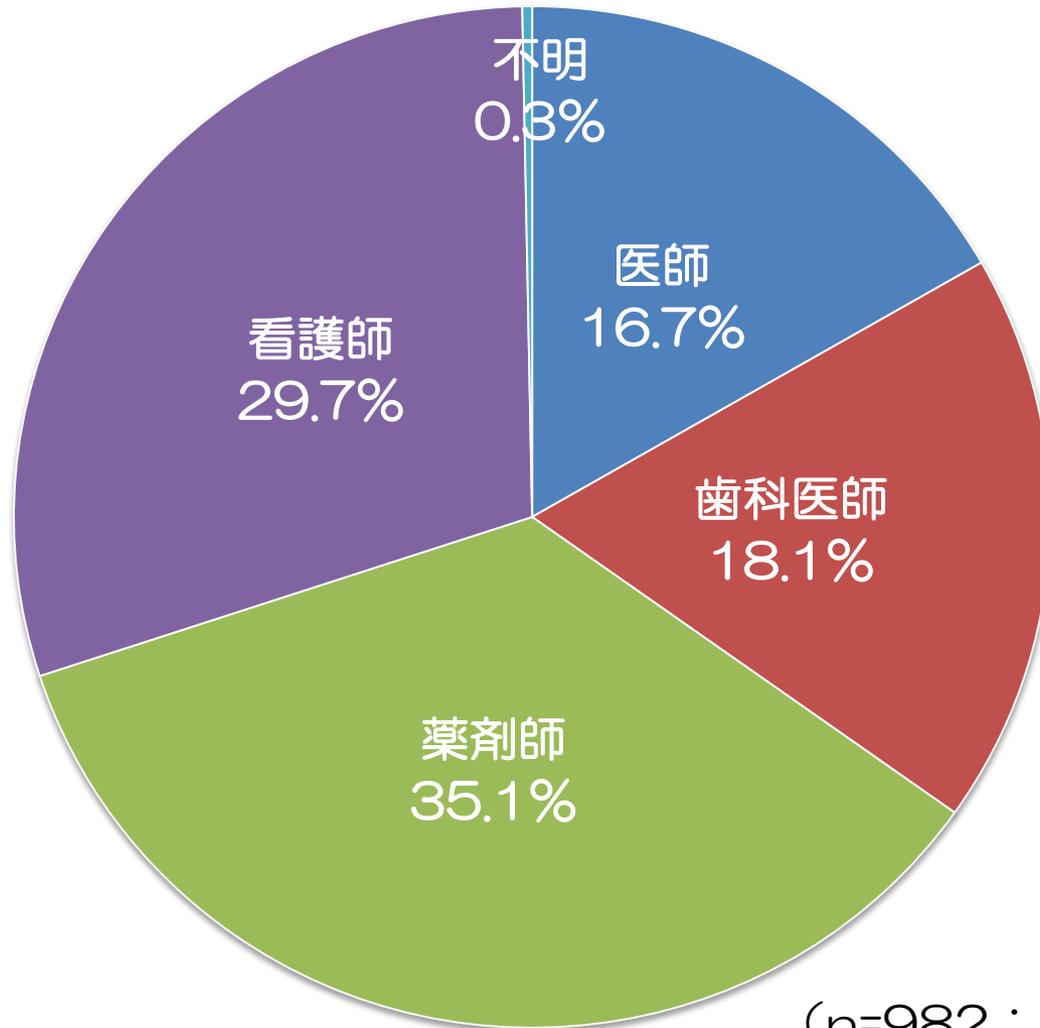
(n=982：熊本県内医療者)

回答者の年代



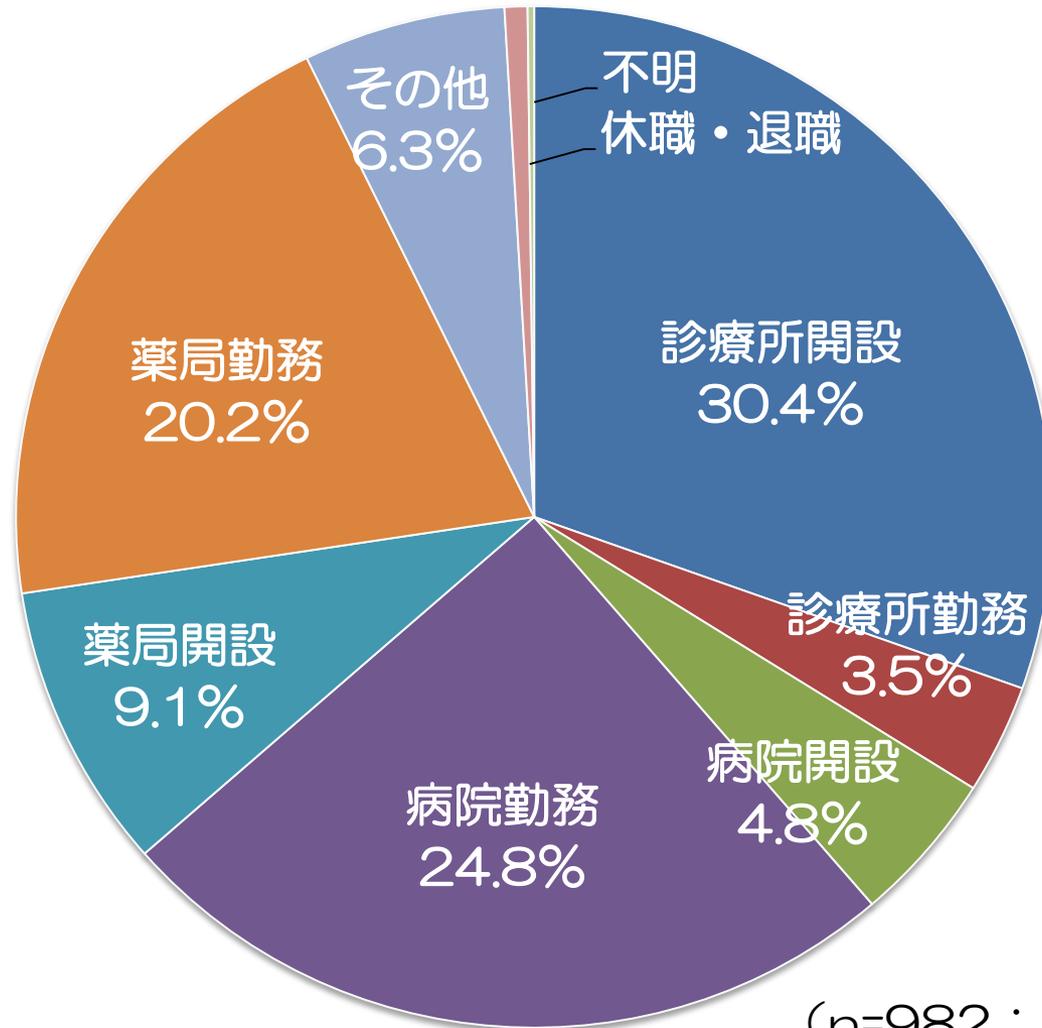
(n=982 : 熊本県内医療者)

回答者の職種



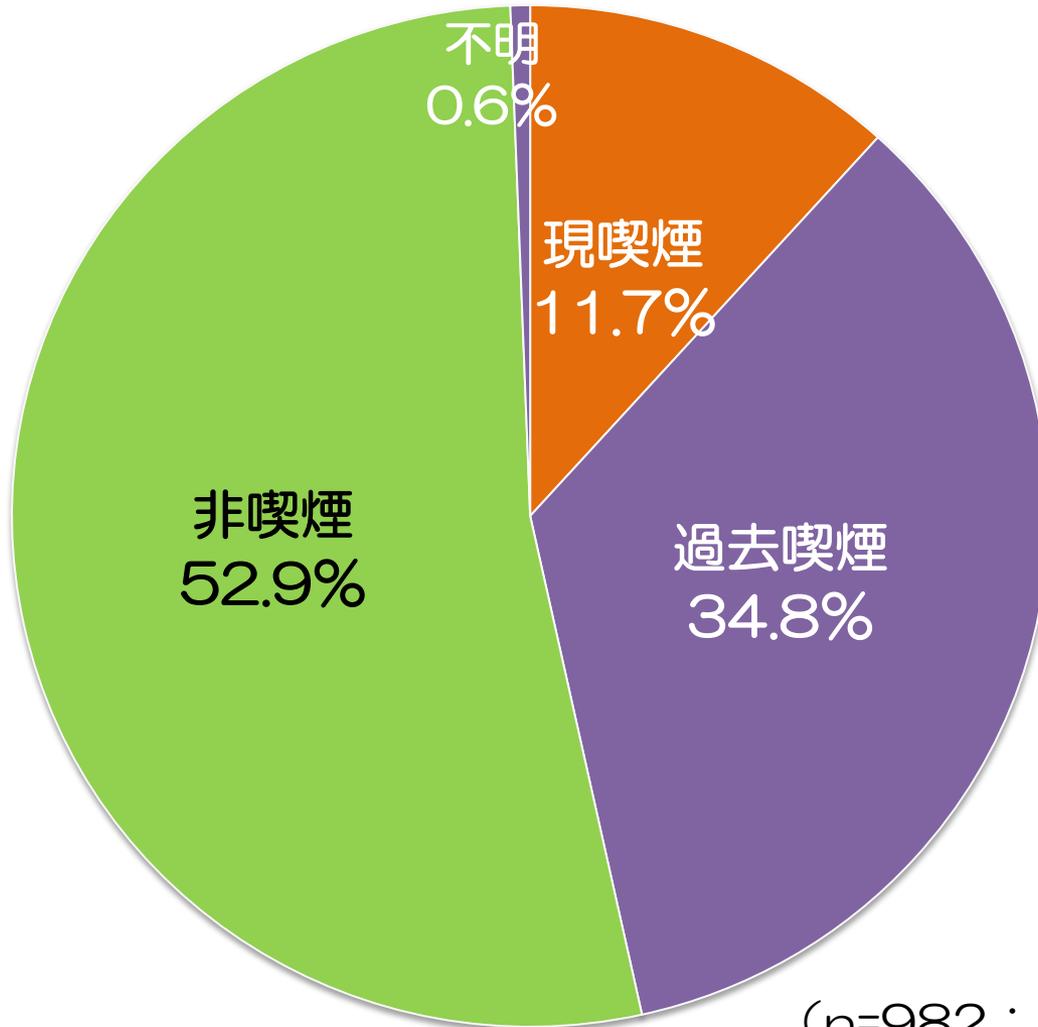
(n=982：熊本県内医療者)

回答者の勤務形態



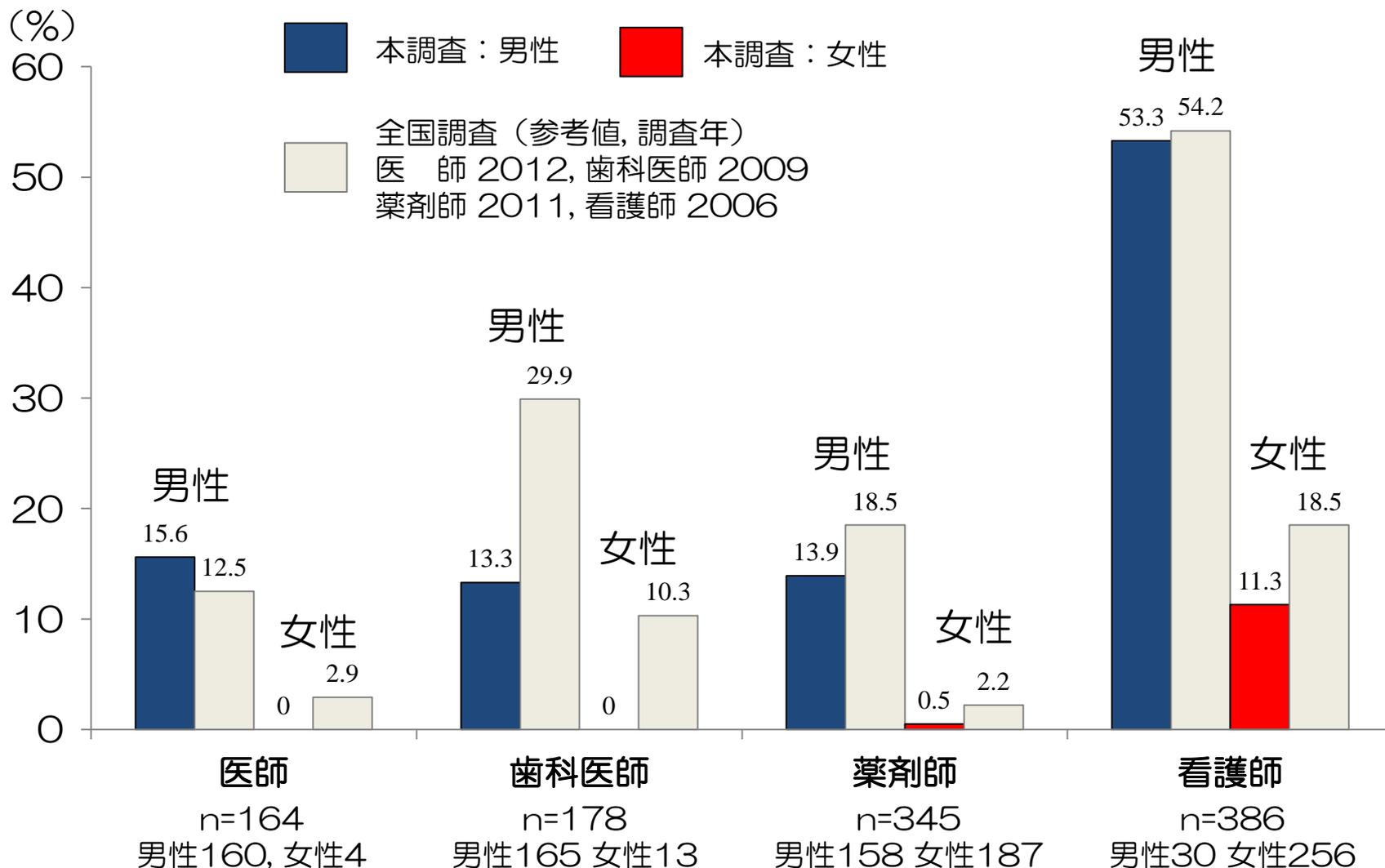
(n=982 : 熊本県内医療者)

喫煙歴



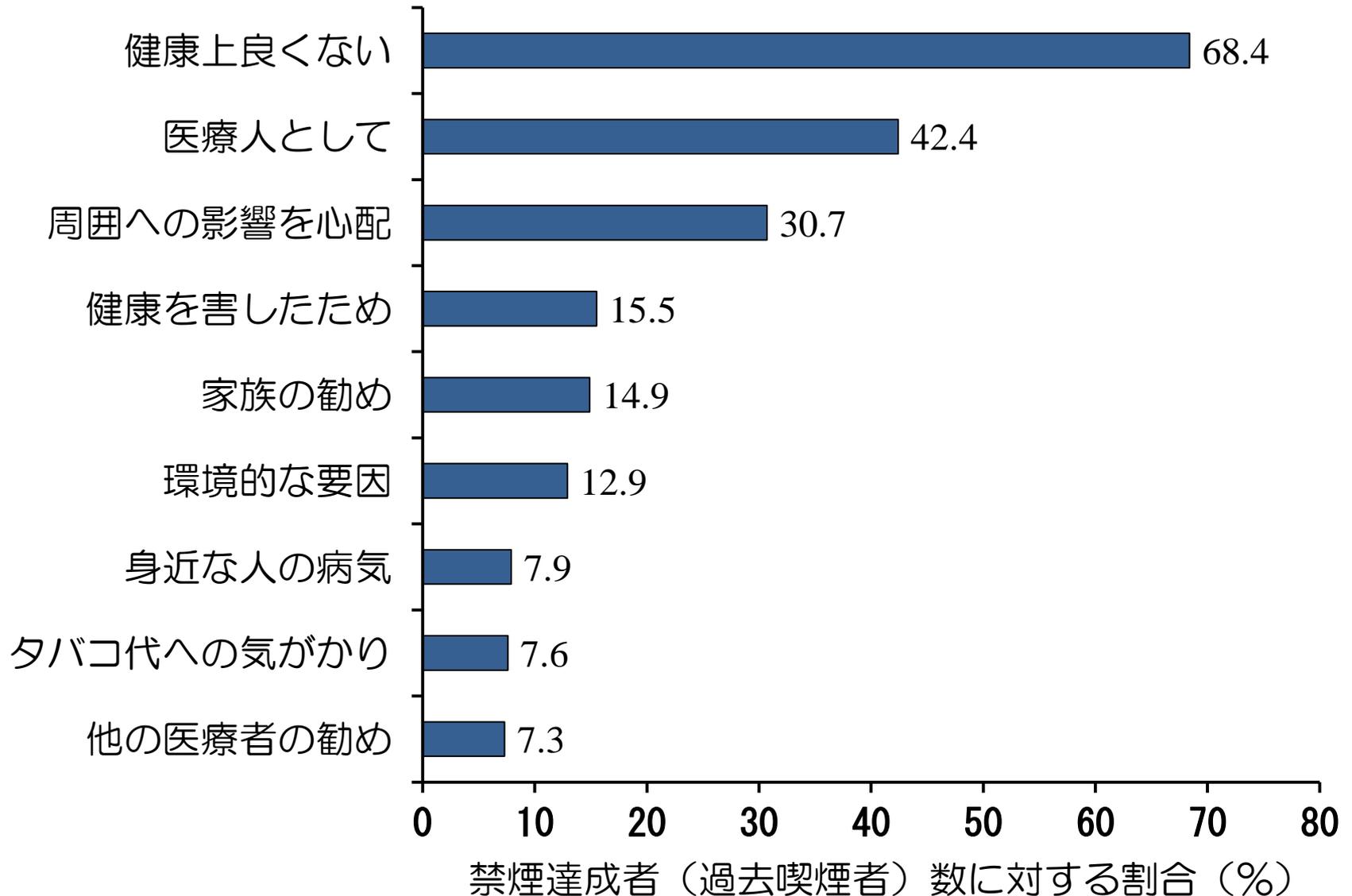
(n=982 : 熊本県内医療者)

本調査における職種別の喫煙歴

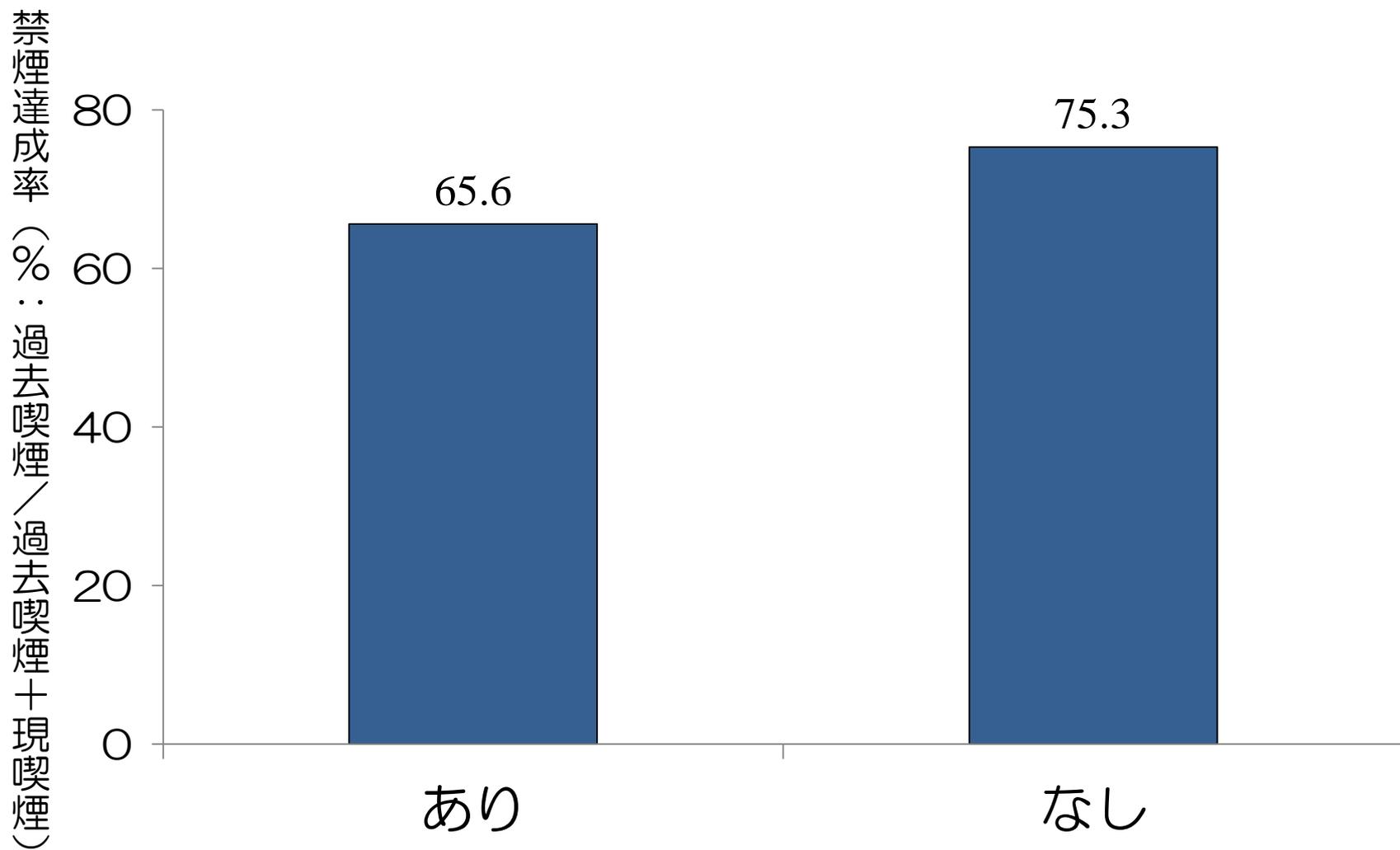


タバコをやめた理由

(n=342：熊本県内医療者のうち過去喫煙者)

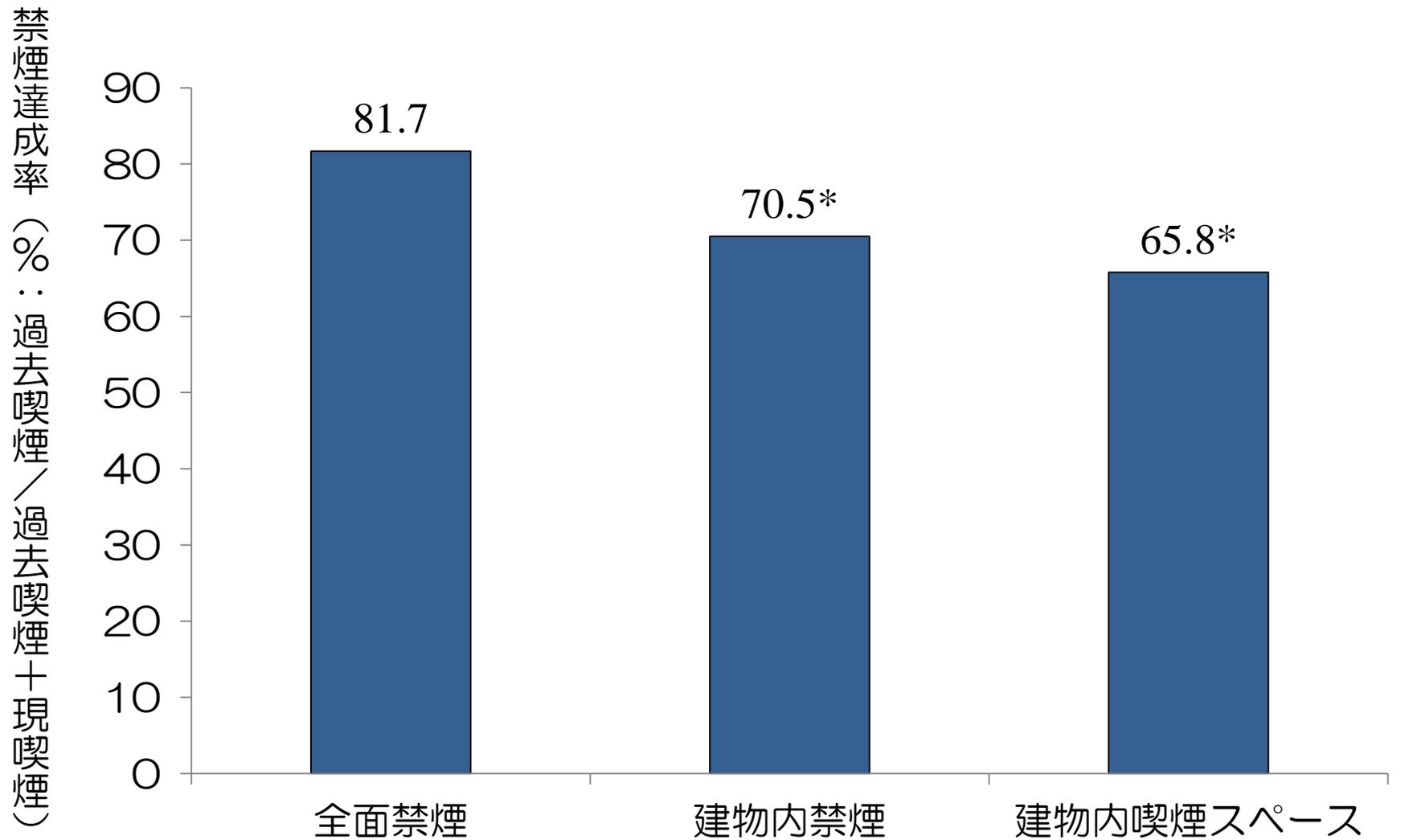


職場内のタバコ販売の有無と医療者の禁煙達成率



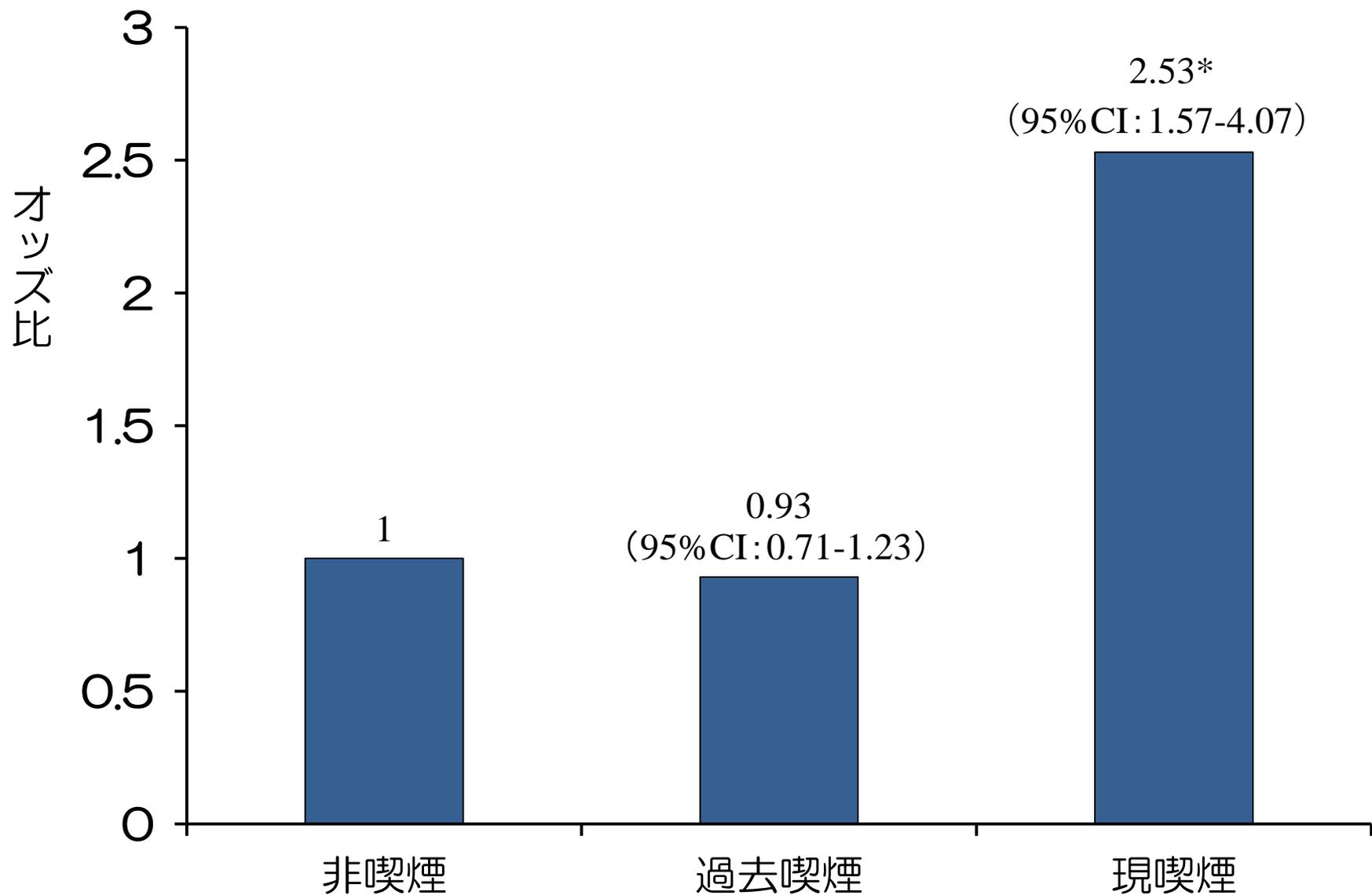
(n=457：熊本県内医療者)

医療機関の喫煙対策と医療者の禁煙達成率



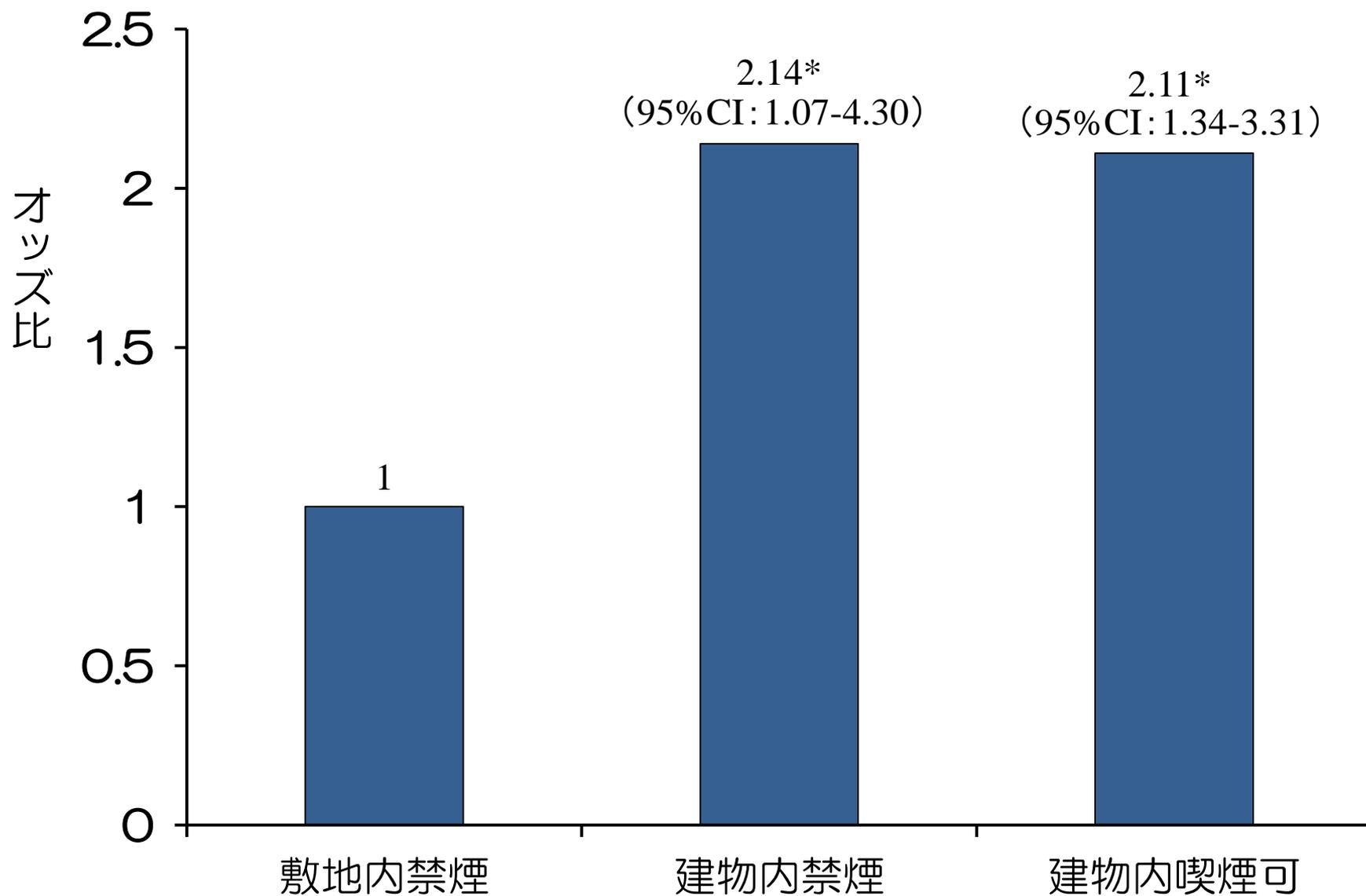
（n=457：熊本県内医療者）

禁煙啓発活動の「取り組みをしない」比率



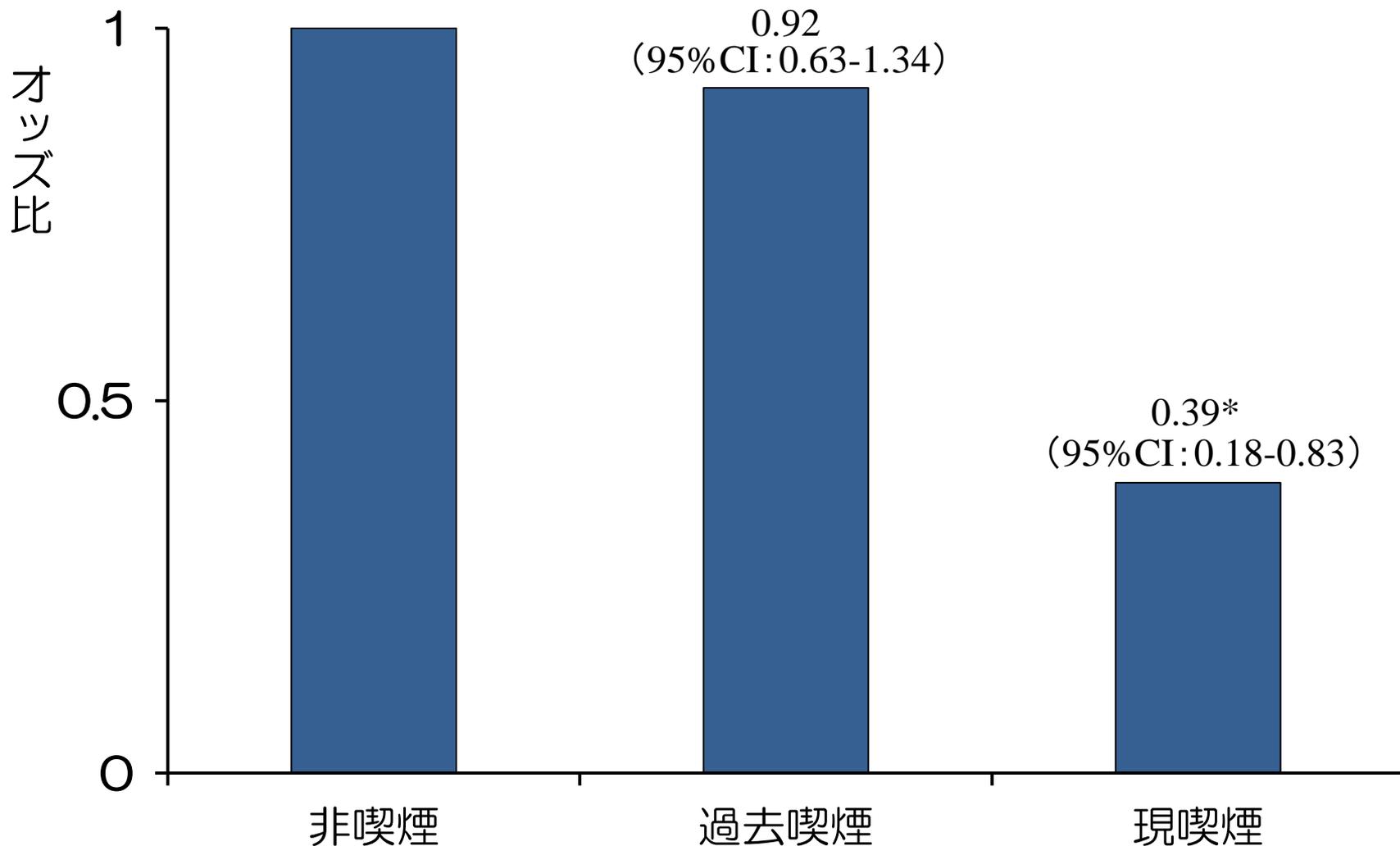
(n=976：熊本県内医療者)

医療機関の喫煙対策と医療者の喫煙リスク



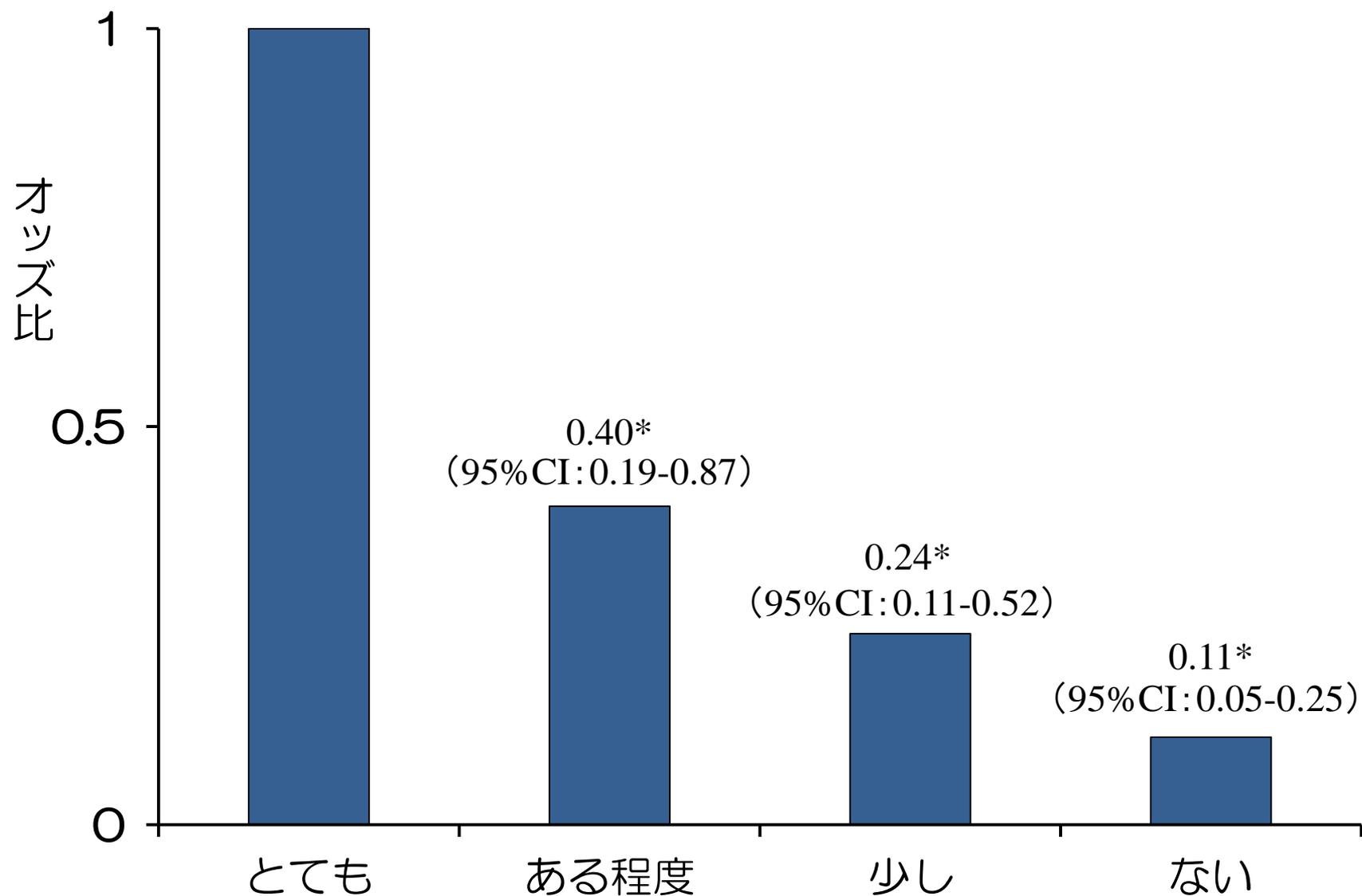
(n=911 : 熊本県内医療者)

医療者自身の喫煙と喫煙者全員への助言の実施



(n=968 : 熊本県内医療者)

禁煙支援の自信の程度と喫煙者全員への助言の実施



(n=973 : 熊本県内医療者)

まとめ

- 医療者が喫煙する場合、禁煙支援や啓発活動の実施率が低下した。
- 禁煙を実施した場合、禁煙支援や啓発活動の実施は、非喫煙者と同等であった。
- 医療機関の敷地内禁煙は職員の禁煙達成と相関し、禁煙支援の実施は自信の程度に左右された。
- 禁煙支援や啓発活動の活性化のためには、医療機関の禁煙化→医療者の禁煙、禁煙支援のための教育→自信の強化が重要であると考えられた。

結 語

- 禁煙支援は重要な社会的取り組みである。
- 職場の禁煙化と医療者への教育が取り組み推進の鍵になると考えられた。